

議決事項

件名	提案理由	審議の状況	採決の次第
報告第21号 平成28年度9月補正予算案についての市長への意見申出について	9月補正予算案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	
報告第22号 垂水市立学校給食センターについて	垂水市立学校給食センターについて報告するものである。	特記事項なし	

平成28年度第6回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出席者	
<p>平成28年9月15日（木）</p> <p>午後3時00分</p> <p>↓</p> <p>午後4時10分</p> <p>第2研修室</p>	<p>教育委員長 野村 繼 治</p> <p>教育委員 田原 正 人</p> <p>教育委員 中谷 いつみ</p> <p>教育委員 葛 迫 幸 平</p> <p>教 育 長 長 濱 重 光</p>	<p>教育総務課長 池 松 烈</p> <p>学校教育課長 下 江 嘉 誉</p> <p>社会教育課長 野 嶋 正 人</p>

会 議 要 旨

1 開 会

定刻、定足数に達しており、平成28年度第6回教育委員会定例会を開会した。

2 平成28年度第5回定例会会議録の承認

承認

3 議 事

報告第 21 号 平成 28 年度 9 月補正予算案についての市長への意見申出について
報告第 22 号 垂水市立学校給食センターについて

4 その他

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉 会

議事内容等

3 議 事	報告第 21 号
教育総務課長	平成 28 年度 9 月補正予算案についての市長への意見申出について補正予算案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告した。
田原委員	公民館の外壁等真っ黒になっており、どうにかならないか考えていたが、今後こういうかたちで修繕がなされるということは、大変喜んでいるとこだ。
教育長	今、教育総務課長から報告があったが、補正額は 1 億 1 千 3 百万円。今度の 9 月補正では、ふるさと応援基金を 2 億円使うようにするという市長部局の方針だった。教育費の小学校教育振興費の垂水小学校図書購入費を除いた分、公民館費の 9 千 5 百万円くらい、2 億円の中の約 1 億円を教育委員会で予算化することができた。今回は、大野地区を除いた公民館の塗装をやりかえるので、綺麗になる。なお、市民館については、状態がいいので、大ホールのみを塗装する。予算化については、職員が頑張ってくれて、嬉しく思っている。
葛迫委員	芸術文化振興費の油彩画修復業務委託というのは、どういうことか。
社会教育課長	先日、市民の方から御寄贈いただいた山下清画伯の油彩画など 4 点の修復業務と額縁購入にかかる費用だ。
教育長	油絵にしみがついており、その修復に要する経費である。
社会教育課長	今年の市民文化祭において、折角いただいたのでよい額縁に入れ替えて、市民の皆様公表しようと思う。修復についてはかなり期間がかかるので、市民文化祭の後に考えている。
葛迫委員	鹿児島業者がするのか。
社会教育課長	画家ごとに系列があって、大分の業者をお願いする。
委員長	何点くらいになるか。
社会教育課長	油絵が 1 点と、水彩画が 3 点。貼り絵はない。
学校教育課長	報告第 22 号 垂水市立学校給食センターについて 垂水市立学校給食センターの在り方についての検討結果について報告した。

中谷委員	垂水市の給食は非常においしいと評判で、児童も生徒も楽しみにしてきた。先生方も給食がおいしくて楽しみだとよく聞いていた。調理をされる方が暑い中で、一生懸命調理をされるということ、頑張っているということも聞いていた。その方々は、誇りとかプライドがとてもあられる方で、それだけ一生懸命されている実績があるからこそ、プライドがあると思う。頑張ってこられた方々のことを無駄にしないで、動いてもらいたい。
学校教育課長	委員から指摘があったとおり、垂水の給食はおいしい。市外からきた職員、子供達からそういうことを聞く。これは、ひとつには、調理員の方々の熱い想い、それから、技術などが生かされていると思う。もう1点は、やはり垂水の食材を大事にしている。地元産で、冷凍物を極力使わない。調味料についても地元産を使う。そういう取組の結果だ。もし、委託の方に動くとしても、肝になる献立や食材の部分は、栄養教諭が担当していくことになる。調理の業務についても、栄養教諭がこういうかたちで調理を進めてくださいと責任者の方に話をしていく。
委員長	各地域での給食費の値段というのは変わらないのか。
学校教育課長	1食あたりの値段については、子供達が負担する分は食材費なので、そう大きく変化はない。
委員長	その中で県下ではおいしいということなので、中谷委員の気持ちは、その高い評価を今後も是非続けてくださいということだ。もし疑義がある場合、味とかはチェックできる方法はあるのか。
学校教育課長	栄養教諭が確認をして、疑義がある場合は責任者に指導する。
田原委員	民間になったときに、今のこのセンターの施設は使うのか。施設を買い上げるのではなくて、調理器具も使ってということか。
学校教育課長	それについては、現有の施設を使ってやっていく。例えば、調理器具、包丁とかについては、契約の段階でどうしていくのか、それまで込みの委託をするのか、委託契約の段階での課題になってくる。
田原委員	民間になったときの給食費の値段の決め方は変化があるか。
学校教育課長	これについては、給食費はすべて食材費となっている。子どもが負担するのは食材費。食材費は市の担当者や栄養教諭が管理していくので、給食費が変更になることは、原則としてない。
田原委員	資料の中で、一食あたりの調理コストは、調理員の総人件費を総調理数で除した金額となっているが、説明をお願いしたい。

学校教育課長	これについては、こちらの職員の人件費総調理数で割ったときの値段である。民間に委託したとき、後一人調理員を減らしてもできますというときは、下がってくるかもしれない。なかには、もう一人増やして置いてあるところもある。今までやっていたときよりも一人増やした定員でやっているセンターもある。それは、業者が請け負ったときにどのような人員でやっていくかになる。子供が支払う給食費の金額は変わらない。
委員長	子供達からの徴収費は変わらない。
田原委員	県下の動向を見てみれば、直営と委託が半々くらいになっている。今のこの聞き取りをされたりした報告書を見れば、直営方式から民間方式へどんどん変わりつつあるというのが実態ですね。
学校教育課長	私が直接確認しているが、センターを新しく作りたい、機能を新しくしていきたい、統合していきたいというときに検討しているところがあったので、数年後にはもっと民間委託の方に動いていくという感触は持っている。
教育長	直営から民間に委託するときは、正式な職員の調理員が定年退職をいつ迎えられるのかということを考える必要がある。うちもこうして結論いただくと、職員の勤務に関わることなので、職員団体との交渉をしなければならない。垂水市は、市町村合併できなくて、単独でいくとなり、これまで、行革で職員を50人減らしてきた。給食センターについては、様々な諸事情があり、当時の市長の判断でしばらくは直営のままでいくと打ち出された。このような中で、1年かけて検討してもらい、時期が来たら、委託に切り替えるという手順である。
委員長	数年後は、6人は退職され、1人になってしまう。問題点は小さいのではないか。
4 その他	なし
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員報告
委員長	教育委員の報告に入る。
委員長	1. 「観劇「蒼空」－空どこまでも蒼く－について」 8月19日「蒼空」－空どこまでも蒼く－を観劇した。鹿屋基地を舞台にした神風特攻隊の話で、身近にある町で起こった出来事として、場面の展開に引き込まれていった。本市の文化会館でもこんなことができるのか

と、音響効果、迫力、臨場感、素晴らしかった。

また、特攻隊がテーマで、戦争の悲劇の縮図を、またその究極の状況を示した劇であった。太平洋戦争の総決算であり、また戦争というものの全ての意味の象徴であり、その帰結としての真実が何処にあるのかを捉えることができた。観客の一人ひとりが、億年永劫変わらない悠久の青空の存在、それに対するちっぽけで無力な歴史に翻弄される人間の存在をむなし気持ちで感じ取ることができたのではないかと思われた。「蒼空」というタイトルが、また、「空」が持つその永遠の存在が、まさに哲学で言う、「観念の液体化」そのものの意味であると思われた。戦争という過酷な運命の下で、当時の若者達が理不尽と気づきながら、愛する妻や子や婚約者の平和な生活を願って自分の命をささげた姿は、ただ悲劇という言葉では表せない慟哭の叫びとして永遠に響いているのだと思われた。青空の意味である「蒼」は、もともと生氣のない青色、くすんだ青色の意味、明るく澄んだ空ではない。この劇の意味もこれにあるのではないか。

田原委員

1. 「肝属地区市町教育委員会連絡協議会研修会（薩摩川内市）について」

8月29日から30日に肝属地区市町教育委員会連絡協議会研修会で薩摩川内市に行ってきた。薩摩川内市は、全市で小中連携教育の取組がなされていることに感心した。その歴史も古く、今年で10年目になり、最初は、校舎は別で、中学校を中心に連携していた。今年度からは、校舎を一つにして、小中一貫型小中学校も取り組んでいこうとしていた。平成31年4月開校予定の東郷学園義務教育学校（仮称）の敷地や完成予想図を見たが、その広さや充実ぶりに驚愕した。

小中連携の成果も出ていて、小中の教員や管理職の交流が進み、指導力の向上や中1ギャップが解消され、不登校や問題行動が減っている。

また、教育特区の取組で、小1からの英語教育や諸検定への補助、ふるさと教育の充実など参考にしたい事例も多かった。

中谷委員

1. 「この夏について」

この夏、やりきったぞ！！という気持ちでいっぱいだ。くる日もくる日もいつもまわりに誰かいて、幸せな毎日であったが、一方では、体力がとても必要な夏だった。朝早くから、「おはようございます。」と、小学生の子供達の元気な声に、「がんばらなくちゃ。」と気合いをいれ一日をスタートする毎日だった。

夏休みに祖父母のところに都会から垂水に帰ってきた児童4人、3家庭受け入れて、宿題や遊びを共にした。

2. 「垂水市要保護児童対策地域協議会について」

8月29日垂水市要保護児童対策地域協議会に出席した。要保護児童の事例が出て、話を聞いた。その会に児童相談所の方、その他関係各所属の方がおそろいだったので、気がかりな家庭との連携の難しさを尋ねてみた。

また、まわりの諸先生方に教えていただきながら、子供達の事、その家族、家庭との連携をいつでもとっていけるように研修を重ねたいと思っている。

さらに、10月26日には、家庭相談員研修スキルアップ研修を受ける予定

	<p>にしており、8月31日は市内9校を民生委員の中の主任児童委員の皆さんと学校訪問させていただいた。</p>
葛迫委員	<p>1. 「垂水中央中学校体育大会について」 9月11日の垂水中央中学校体育大会を拝見した。まだまだ暑い日が続いている中での体育大会だったが、暑さを吹き飛ばすかのような体育大会であったと感じた。短距離走や中距離走、リレーなど選手がきびきびと動いて怪我も無く、種目が進んでいく様子がさすがさを感じる運動会だった。ただ、運動会の種目が少ないように思えた。トラックの種目の他にフィールドで行えるもの、垂水市独特のものをもう少し考えてみる必要があるのではと感じた。</p> <p>2. 「松本市美術館名品展開催について」 鹿児島市と長野県松本市は、文化・観光交流都市として協定を結んでいるが、その縁で、9月30日から11月6日まで鹿児島市立美術館において、松本市美術館名品展が開催される。 西郷弧月、田村一男、草間弥生といった著名な作家の作品が展示される。その作家の中で西郷弧月は垂水に縁のある作家といえる。昭和45、46年頃垂水高校で西郷汀という女性の先生が音楽を教えていたのだが、西郷弧月はこの西郷汀先生の曾祖父に当たる方だ。 西郷汀先生は、現在、溝口汀オカリナ奏者として活躍されている。 西郷弧月は明治6年に生まれているが、垂水市出身の和田英作は明治7年生まれだ。西洋画・日本画というカテゴリーの差はあるが、同じ東京美術学校で同時期に学んだということもあり、何か垂水に深い縁を感じるのだが、皆さんにも一度弧月の作品に出会ってほしいと思うところだ。</p>
教育長	<p>1. 「平成28年度地域が育む「かごしまの教育」県民週間表彰〈標語〉被表彰者について」 平成28年度地域が育む「かごしまの教育」県民週間表彰〈標語〉部門で、境小学校の3年生 中村心春さんが最優秀賞となり、ポスターに標語が掲載される。1,910点の中の最優秀賞で価値ある賞である。境小は一昨年も学校賞を受賞し、今年最優秀賞を受賞し、大変喜んでいる。ポスターができてあがるのを楽しみにしている。 最優秀賞の標語 「とどけたい 外までひびく 「はい」の声」 新城小学校の6年生 岩下翼君の特選の標語 「後ろから がんばれファイトと ふるさと先生」</p>
教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長	<p>8月10日から9月15日までの主な行事等について報告。併せて、10月7日までの予定についてお知らせした。</p>
6 閉 会	